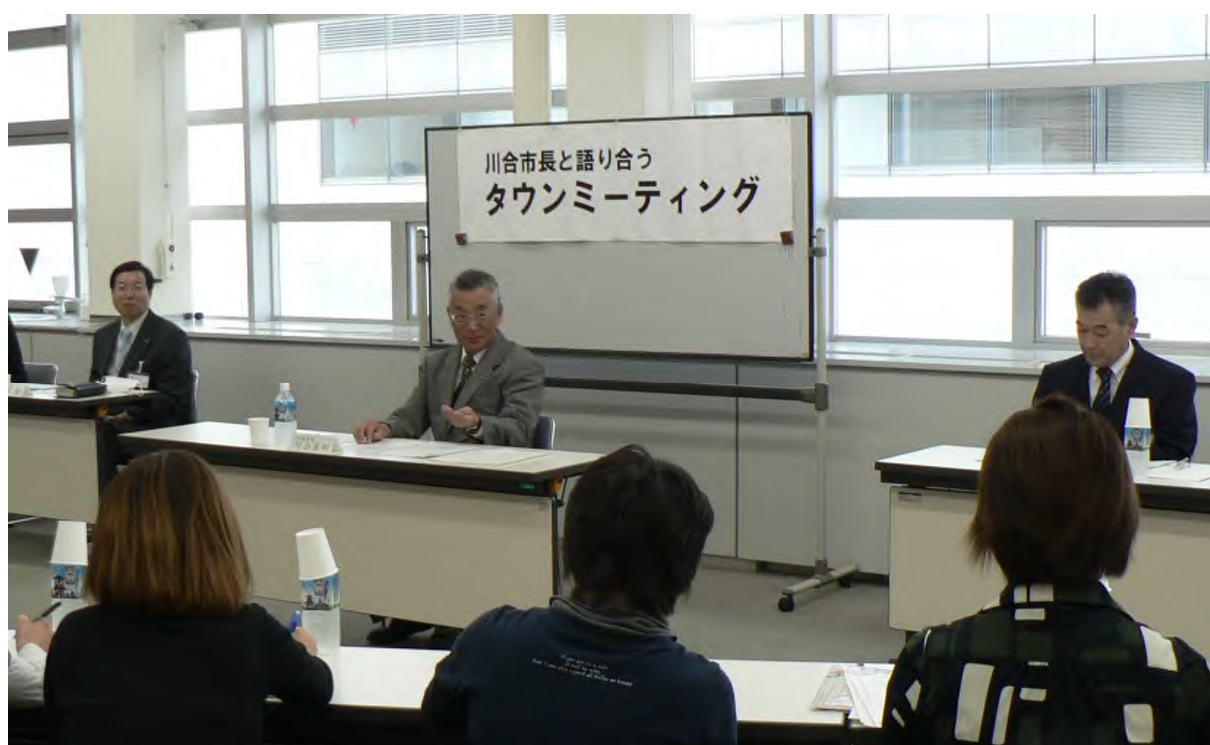


平成22年度 第6回

川合市長と語り合うタウンミーティング

～ みんなでつくる子育て環境 ～



日時：平成22年10月25日

午前10時～午前11時30分

場所：総合保健センター 研修室

参加者

子育てサークルに参加されている、子育て中の皆さん 26 名

出席者

市長、石川副市長、秘書広報監、市民部長、福祉部参事、子育て支援課長

意見数

分 類	件数	内 容	頁
保 健 ・ 医 療 ・ 福 祉	9	子ども手当	2
		子ども用のトイレ	3
		予防接種の助成	9
		身近な子育て相談窓口	10
		子育て支援の広報	12
		訪問型子育て相談窓口	12
		育児ストレスへの対応	14
		子育て相談	15
		こども医療費助成の拡大	22
教育・文化・スポーツ	2	少人数学級	22
		子どもの英語教育	25
都市基盤・生活基盤	4	公園	3
		公園の整備	7
		南古谷地区の整備	19
		新河岸駅周辺の整備	20
地域社会と市民生活	9	児童館	3
		子どもが遊べる公園	4
		児童遊園	5
		遊具の整備	7
		児童館の充実	7
		青空児童館	12
		コミュニティカフェ	17
		防犯灯の設置	21
		通学路の安全対策	24
計	24		

意見交換（要約）

《子ども手当》

川合市長 皆さんのほうからご意見が出にくければ、私のほうからちょっと問題提起を。

子ども手当というのがありますが、あれについて皆さんはどういうふうに受け止めていらっしゃるのか、とても歓迎するという意見であるのか、あるいはそれ以外に、もっと金額をふやしてほしいというご意見なのか、そんなところはいかがでしょう。意見 子ども手当をもらえるのはもちろんありがたいんですけど、やっぱり基本的には、よく言われますが、学校の給食費とか学費とか、そっちの負担を減らしてもらったほうが、子どもがいると将来の不安が大きいので、そういう部分に使っていただくと、もうちょっと安心して子育てというか、将来を考えられるかなという気がします。

意見 ことし、とても暑かったので子どもたちには水筒を持って学校に行かせたりはしていましたが、冷房のない部屋で一日勉強していて、親も、暑いとき、ときどき学校に行くこともありましたが、本当に暑いんですよ。とてもつらいなと感じたときがあったので、子どもたちもそうだろうと思いますので、冷房なんかをつけていただくほうがありがたかったかなと思いました。

川合市長 この話題というか、問題をお聞きしたのは、今、民主党が言っている子ども1人、月額1万3,000円、それをいずれは、本来の公約だと1人当たり月額2万6,000円ということになりますが、子ども1人、1万3,000円を支給するとなると、川越市の場合は年間56億円のお金が基本的には配られることになるのですね。その大部分は国から来るのですが、一部は市の負担の部分もあるのですが、56億円のお金があったら、今言った学校の冷房であるとか、あるいは、まだ国が義務づけていないワクチンの接種を無料でできるとか、子育て関連のいろいろな事業にいっぱい使えるのになあという、そういう思いがあるのですね。

自治体は配る事務を負担する、もちろん事務負担料については一定のお金は国から来るのだけれども、それだけであって、目の前をお金が通過していく、すごくこれはよくないなと私は思っている関係で、皆さん方のご意見を聞いてみようと思いました。これは口火ですから、子ども手当にかかわらず、子育てについてどんどんいろいろなお話をいただけたらと思います。

《児童館、公園》

意見 今現在はまだ1歳とか2歳とかなので、いざ遊びに行くときに、わざわざ車を出して市外に遊びに行くというお母さん方がすごく多いんですね。もっと川越市に児童館とか公園とかの遊べる環境をつくるべきだと思うんですね。

川越って、年齢層の上の方がすごく優しい地域だと思いますので、その方々と子どもたちとが触れ合えるような公園をつくっていくと、今後、子どもが成長していく上で、すごく勉強とか学習にもなると思うので、もっと触れ合える場所をつくってもらえたらなと思っています。

川合市長 児童館については、川越は三つありますが、周辺の自治体に比べると数が少ないと言えます。児童館類似のものとして、名細市民センターなどに子どもさんを遊ばせることができるような場所をつくってはいるのですが、まだまだ足りないというのは認識しております。公園もまだまだ川越は少ないという認識は持っております。予算の問題もありますけれども、なるべく前向きに考えていきたいと思っております。

意見 児童館の内容が月齢に応じていないんです。例えば1歳だと、パズルがあってもパズルはできないじゃないですか。ところが高階児童館はパズルが多かったりとかで、月齢に応じた施設をつくってもらいたいんです。ボール遊びが好きな時期はボール遊びのできる体育館があるところをつくるとか、月齢に応じた児童館、雨の日はここで遊べるんだよというところをつくってもらえるとありがたいです。

《子ども用のトイレ》

意見 公園で子どもたちが遊べるのもそうなんですが、すごく単純なことですが、公園に行って、まずトイレがないのと、子どもと一緒に入れるトイレがないんです。一緒には入れるけれども、子どもってウロチョロするじゃないですか。自分がトイレしている間に、いつドアを開けて出て行ってしまうのかって、結構心配しているお母さんが多いと思うんですよ。だから、子どもを座らせられるイスだけでも設置していただければ、ただそれだけのことで安心ができる。月齢のときに外に放っておくわけにもいかないので、それがあるとすごくありがたいです。

意見 今のトイレの話で、子どもが2歳ぐらいになったときに、親子で行くんですけども、その子がトイレに行くときにお母さんは男児トイレには入りづらい。女子トイレの大人が座る便器だと、子どもはお尻が小さいので、お母さん方は押さえてされていると思うんですが、やっぱりパンツを脱がしたりとかで結構苦労されているかなと思うんですね。私もそういうときがあったので。

子ども用の便器を、新しい施設はついているところが幾つかありますが、もう何年もたっているような古い公民館にはついていないところが多いので、つけていただくとありがたいなと思います。

石川副市長 赤ちゃんの駅はできないんですか。

齊藤子育て支援課長 今、副市長から、赤ちゃんの駅という話が出たのですが、市内40カ所の公共施設には、オレンジ色の赤ちゃんの駅の表示をごらんになったと思いますが、その施設については利用ができるようになっていきます。ことしは埼玉県から補助をいただきまして、ベッドですとか、設備のほうは今年度中にかなり整備されますので、恐らく実際にお使いになってみれば、一緒に入れるようなトイレですとか、私も子育てをやっているとき、男性のトイレって赤ちゃんをのせるところがないですね。徐々にですが、そういうのをつけるようになってくると思います。

意見 ベッドだけじゃなくて、男の子用のトイレも女子トイレについているとありがたいかなと思います。

齊藤子育て支援課長 お母さんとしても男性のトイレは入りにくいものですものね。

意見 入りづらいです。

意見 今の続きですが、防犯の面からも、4、5歳の男の子で、自分でおしっこのできる子を男性のトイレにぼんへ行かせるのはちょっと抵抗があるんですね。中にどんな人がいるかもわからないという場所もありますので、女性用のトイレの領域の中に男の子用の便器を設置していただくと非常に安心だなと思います。よろしく願います。

《子どもが遊べる公園》

意見 公園の話が出ましたが、小学校の3年生、4年生になったら学校に行って遊べるとは思うんですが、幼稚園とか小学校低学年だと、近くの公園は大体ほとんどがボール遊びやサッカー、野球は禁止ということになっています。それは隣に駐車場があったり、お家があったりするので、飛んでいったら迷惑をかけるというのはわかりませんが、それはフェンスを高くしていただくとか、ちょっとしたアイデアでできるのではないのでしょうか。子どもたちも、全く禁止されていると、何も考えないで、ここでやっちゃいけないというふうになるとは思います。

小さい子がいるときは、小さい子がいるからやらないようにしようねと、でも、小さい子がいないときにはできるような環境とかがあればなと思うんです。そうでないと、本当にそれですごくやらなくなっていく子どもたちを見てきましたし、女の子の親は余りそういうことはなく、男の子のお母さんたちだけが責められているような感

じもあったので、ちょっとした工夫をしてほしい。どこに行ってもその看板を必ず見るので、見るだけでいやになってくるというときもありました。大きくなれば小学校とかいろいろなところに遊びに行けますけれど、何か工夫をして、そういうことができる小さい公園がふえていけばいいなと思っています。

石川副市長 市長のほうに苦情も来てますよね。

川合市長 神社の境内を使って児童遊園みたいな形にしたところ、隣の人から、ボール遊びでボールが飛び込んできて迷惑だから、よく学校で指導してほしいと。学校では口を酢っぱくして言っていますが、やっぱり遊びたいですよ。フェンスはつけられないのかと言ったら、これは市の土地ではないからとか、そんな話でしたね。

フェンスがつけられるところには本当はつけて、ボール遊びができるようにしてやったほうが子どものためにはいいのしょうけどね。

意見 仙波のほうの、多分小学校のテニスコートだと思うんですが、そういうところはすごく高いフェンスで、こんなところがあればいいなと。お金もかかると思うんだけど、何力所かあればいいなと思います。

川合市長 できるだけ子どもがのびのび遊べるような場所を確保するというのは、課題であるというふうには認識しています。

《児童遊園》

意見 公園の関連ですが、私は高階地区に住んでいますが、以前からあった公園が2年ほど前に住宅地になってしまっていて、かなり面積も広くて、いい公園だったので、周りのお母さんたちも、そこをぜひ残していただきたいということで、私は当時それにかかわってはいなかったんですけど、署名をして嘆願書のようなものを提出したのに、結局それはかなわなくて、そのまま宅地として家が建ってしまいました。その地域には公園はそこしかないの、本当に困ってしまっているんだよという話をすごく聞いたんですね。

なので、一応、その段階では母親としてできることはやったと思うんですけども、それ以上何をやればそういった希望を聞き入れていただけるのか、教えていただきたいと思います。

川合市長 それは五ツ又の公園ですね。一般的にというか、川越市では公園用地は借地でやろうという方針で来ていたものですから、公園が個人の持っている土地を使ってつくられているところがいっぱいあるのですね。そのため、相続などが発生して税金を納めるために売らなければならないと言われてしまうと、市がそのとき買い取れば一番いいのしょうけれども、なかなかさっと何億円ものお金が出るわけではな

いので、それで返さざるを得ないことになってしまうのがときどきあるのですね。五ツ又の場合は、すぐ近くに比較的広い公園が新しくできましたね。

意見 小さな公園ですね。

川合市長 いえ、オープニングに行きましたが、新しくできたのです。確かに今まで公園として使っていたところが使えなくなってしまうというのがときどきありますので、方針として、今までと同じように借地で公園をつくっていくということでもいいのかどうか、その辺のところも考えなければならぬのかなと思っていますところ

尾崎市民部長 公園ですが、都市公園といって市が持っている公園で、公園法の公園というのが本来の公園ですけれども、なかなか数が少ないものですから、地主さんのご協力によりまして、自治会が管理している児童遊園という所が結構あります。当面うちは何にも使わないから児童遊園、近所のお子さんが遊ぶような公園でお使いくださいというような善意で自治会が管理している公園というのがあるのです。その一つだったと思います。

ですから、土地を市が持っているわけではありませんので、長い間ご厚意で借りていた、今度うちのほうで相続が発生して相続税を払わなくてはいけない、だからそれを返してくれませんかという話になったときに、皆さんからご要望があって、何とか市のほうでも買いたいという気持ちはないわけではないのですが、金額が相当するのですね。今市長が言ったとおりに、都市公園として市が整備していく公園というのが、その近くに、砂のところに大きなものがございまして、それと五ツ又のところはすぐ近くです。そういう公園が全部のところにはいっぱいあればいいのですが、なくなっていったときに、そういう難しい部分もあります。

少ないというのは担当のほうでもよく承知しておりまして、何とかしたいのですが、そういう公園もあるので、ご理解いただければと思います。

意見 個人が持っている土地を借りて公園にしているタイプは川越市にどのくらいの割合で今あるんですか。市が直轄で所有している公園の割合とか、把握されているのでしょうか。

尾崎市民部長 青少年課という課が地元の方からお借りして児童遊園というのをつくっています。恐らく百数十あるのではないかと思います。自治会が管理しておりまして、土地をお借りして、遊具については市のほうでつくっている公園が相当数あるのですね。

意見 こういう話は、出てこないとわからないお母さんたちもいらっしゃるじゃない

ですか。今、具体的な話を私も初めて聞きました。もし、ここの公園がとてもいいとしても、気づいたら何年後かに住宅地になって、がっかりするわけで、やはりこういう会に出たり、いろんなところで知識を得ないとわからないじゃないですか。行政に直接携わっている方たちは、簡単に言うと、おじさんたちはすごいそういうのを知ってらっしゃるかもしれないけど、普通の子育てしているお母さんは毎日いっぱいいっぱいなので、あしたから公園はないんですよと言われて、「えっ、なんで」という驚きの声しかあがらないんですね。

尾崎市民部長 確かに近くの公園というのはすごく大変な問題のところでございます。ただ、公園の絶対数が少ない、ではそれを買うまでの間、どこにもないというよりも、そういう制度で少しでも皆さんの近くで遊べるような、ご近所に、どうぞうちのお使いくださいよというような人のところを借りて、整備は市がしていますけれども、そういう公園もあるものですから。

ただ、砂のところは相当広い、五ツ又の公園でしたけれども、ああいう大きなものというのはそんなにないのですけどね。

川合市長 児童遊園の場合、7、8割は借地でしょうか。

尾崎市民部長 そうですね。持っているというものはほとんどないです。

《遊具の整備》

意見 大袋というところですが、うちの近くに児童遊園が一つあって、遊具がさびついでいてすごく汚いんです。とてもじゃないけど子どもを遊ばせられないので、違うところにわざわざ車を出して行っているんですけど、その整備は市でなされているんですよ。

川合市長 そうですね。遊具についても、危険なほど古くなっているものについてはさっさと撤去しなさいという話を昨年して、新しいものに順次更新しているはずですけども、そこに回せる予算が限られているから、一度にはできないという面があります。問題のある遊具であれば、言っておいていただければ、危険があれば、なるべく早く撤去して、なるべく早く新しいものにつくりかえるようにします。

《公園の整備、児童館の充実》

意見 児童公園の7、8割が借地というのを聞いて、じゃあ先ほどの方の話のように、行ってみたらなかったとか、そういうことってきっとあるんじゃないかと、今その7、8割というのを聞いて、危機感じゃないですけども思ったので、やっぱりこれは市の公園を、市のほうでもっともっと公園を整備してつくっていただくという方向をぜひ検討していただきたいと思います。

そうでないと、乳児期に子どもと家ばかりいるのはとても息詰まってしまうし、やっぱり公園に行って、自分の子育て仲間をつくるという意味でも、すごく公園って大事な部分なんですね。だから、借地が7、8割ではなくて、できれば川越市で7、8割を持っているんだよというふうになれるように、確かに予算も限られているとは言いつつ、やっぱりそういう部分でぜひ整備をお願いしたいと思います。

それと、児童館の話が先ほど出ました。先日、実は、子育てサークルにかかわっているので、上尾市の児童館こどもの城というのがすごくいいんだよ、そういう児童館をぜひ川越市でもつくってもらいたいという声があったので、一緒に見に行ってきました。1本、橋を渡っただけで、本当にすてきな児童館ができているのを見まして、こういうのを川越市でもぜひぜひ検討していただきたいと思ったんです。

すごくたくさんの方が遊びに見えていたんですね。中庭にも人工芝がしかれていて、そこでも縄跳びをしたりすることもできますし、また部屋の中で遊んでいて、ちょっと飽きちゃったという、その隣にまた公園があったりして充実していたので、ぜひ一個でもいいし、類似の施設は確かに高階のほうでも今回つくっていただいたり、名細のほうでもつくっていただいたりしましたけれども、本当に充実した児童館をつくってほしい。そこは小さい子たちだけじゃなくて、小学生も帰ってきたら遊べるようにもなっているんですね。確かに東口のクラスセなんか、そういうふうに遊びに来れる、どこでもそうなんですけれども、そういう施設を一つでも二つでもぜひつくっていただけたらと思います。

意見 上尾の児童館については私もすごくいいなと思っていて、保健師さんとか助産師さんの相談がありますという、赤ちゃんのころからの相談ポスターが張ってあったりとか、パンの販売とかも、障害を持つ方の施設の方が直接来て販売していたりするんです。

子育て中というのは、お弁当を持って児童館で一日遊ぶことができれば一番いいと思うんですけど、小さい子をいっぱい連れて、毎回毎回お弁当をつくっては行けないので、それは売る側にとってもメリットがあるし、いろんな方と接するという意味でも、大人にとっても子どもにとっても、地域にとけ込んでいくという意味ですごくいいことだと思ったんですね。

上尾の児童館ですが、先ほどの方も話されていましたが、小さい子を連れて行っても、小学校の子を連れて行っても、本当に一日中遊べる施設です。午前中は小さい子が遊んで、午後になったら幼稚園の子が帰ってきて遊んで、2時ぐらいになったら小学校の子が帰ってきて遊んでというように、一度でいいので、見に行っていたきた

いなと思います。

意見 施設をつくるって、多分すごい膨大なお金がかかると思うので、私はよく運動公園に行くのですが、例えば運動公園に行くと、午前中は体育館が空いていることが結構あったりするので、そこを活用できないかなと思うんです。子どもたちはそこだったらボール遊びもできるし、ちょっとだけ区分けすれば、小さい子がハイハイするようなスペースをつくってあげることもできる。最近の夏のように、外にも出せないような暑さの日でもみんなが遊べたり、あそこだったら結構広々としていて、ある程度の年齢の子まで、幼稚園とかそのぐらいの子まで遊べると思うんです。

新たに作るのが本当は望ましいのかもしれませんが、そういう使っていない時間帯、使っていないところを活用できたらいいのではないかと思います。

川合市長 検討してみたいと思います。

意見 お願いします。

《予防接種の助成》

意見 予防接種のことで、先ほど、子ども手当があったら予防接種に回せるのというお話がありましたが、去年、ヒブワクチンと、上の子たちのインフルエンザというので、予防接種だけですがすごくお金がかかっちゃったんですね。ほかにも水疱瘡とかおたふくとか受けるとなると、医療機関によって金額もさまざまだし、結構金額が張っちゃうので、予防接種に対して補助が出るといいなと思っていますが、いかがでしょうか。

川合市長 この9月議会で子宮頸がんワクチンに関しては補助を出しましょうということになりました。そういう形で子育ての側面からの支援というか、子どもたちのためになるようなことはやっていきたいと考えていますし、ヒブワクチンとか、今話題になっているものを検討の対象にはしています。ただ、国が子宮頸がんワクチンについては出すとか、最近そういうようなことを言っていますよね。まあ、国がやるのだったらそれが一番いいと思っていますが。

国の悪口ばかり言っているとはいけないのだけれども、国というのは、やりますというふうに言って、例えば平成25年度までやりますと期限を切るような形で言って、いざ25年度が来たとき、あとは自治体さん独自の判断で、やめるなり続けるなりしてくださいよと、そういうのが結構あるのですよ。そうすると、自治体としてはやめるわけにいかないでしょう。そういう形で負担がどんどんふえてしまうというのがあるのですね。

妊婦さんの健診が今まで5回まで無料だったのが、去年の10月ぐらいから14回ま

で無料になった。それもたしか来年の3月末までで、3月末以降どうするのか、国はまだはっきり言っていないですね。

《身近な子育て相談窓口》

意見 私は子育てを支援するほうの立場なんですね。子育てサロンスタッフとか保育サポーターとか家庭教育アドバイザーをしています。今ちょっと問題があるのは、公園とかサロンに出られないお母様方も多分いらっしゃると思うんですね。こういうところとかサロンにいらっしゃれるお母さんはまず心配ないと思いますが、マンションの中で親子二人だけで毎日暮らしていて、公園にも行けない、サロンにも行けないという、そういうお母さんのことが心配なんですね。

いろいろな問題があると思いますが、例えばそういうお母さんのために、スーパーの一角とか赤ちゃん本舗の一角とか空き店舗とか、そういうところで買い物がてらに、私たちみたいな人がいて、そこで子育ての悩みを話せるとか、そういう場があれば、みんなだれでもスーパーには行くし、赤ちゃんのお洋服も買いに行くと思うので、そういう一角にちょっとしたスペースがあって、きょうは朝から子どもが泣いて大変だったのよと一言言うだけでも、そのお母さんは救われると思うんですね。具体的には多分難しいと思うんですけども、そういうところがあれば、今は虐待も多いし、救われるお母さんもたくさんいると思うんですね。

もう一つ問題点は、研修を受けてアドバイザーになっても、活動の場がないんです。今は個人情報云々というので、研修を受けても、お隣の人とかに、住所を教えて、名前を教えてと言うと、電話番号はわかるのですが、実際に去年受けた人の住所もわからないし、活動しようと思ってもメンバーがわからないんですね。せっかくそういう講習を受けて、そういう立場に立っても活動の場がないので、個人情報云々というのも今は大切なのでしょうけれど、せっかく受けた講習がむだになるような気がします。ちょっと皆さんとは立場の違うところからお話しさせてもらったのですけれども、もうちょっと支援する場所をつくっていただけたらなと感じています。

空いている店舗とか、スーパーの一角とかにそういう場所を設けるといってもいろいろな問題点があると思うんですね。何曜日の何時にここは開きますよというのではなくて、常にいるような場所をつくりたいと思うと、やっぱり営業時間中はいなくてはいけないとか、あと、公的な報酬もないとか、完全なボランティアでやるのかとか、いろいろな問題がたくさんあると思いますが、大きく考えたら、そういう場所があると虐待も少しは減るし、支援という立場で私たちも活動できるかなと思うので、ちょっとご検討していただけたらと思います。

川合市長 今回の子育てに関する相談というのはどういう形でやっているのか、わかりますか。

小谷野福祉部参事 在宅で子育てをされている方の、お話がありましたような相談とか遊びの場として、市では今、名細支援センターを、名細保育園の中にあるのですが、そこが核となって、法人では風の子保育園、あるいは増美保育園という支援センターがございます。それが3カ所です。

そのほかに、こちらは相談業務が中心ですが、つどいの広場ということで、これは3歳未満のお子さんとお母さんが気軽に行き、いろいろな情報交換とか話し合いの場を提供するというので、午前中だけですが保育園の中に、そのほか石原町の児童センターとか高階、名細の中に、つどいの広場というのを週3回以上やっている施設があります。そのほかに、これは週1回か2回ですが、わくわく広場ということで、保育園のホール等を活用して、そういった地域の子育て中の親子のために場所を提供しております。保育課で所管しておりますけれども、保育士を2人配置して、いろいろな相談とか一緒に遊ぶお手伝いをさせてもらっています。

もう一つは、連雀町、旧保健センターのところですが、ここに連雀町つどいの広場ということで、月曜から金曜までの10時から2時ぐらいまで、そちらでも専門のスタッフを置いて、集えるような場の提供をさせていただいております。

川合市長 今のご意見は、民間の施設の中に常設的な相談できる場所をつくったら、なかなか外に相談に行けないような人も相談に来るだろうと、そういうご意見ですよ。

意見 構えて相談に行こうというのではなくて、ネギを持っていても卵を持っていても、あそこにお子さんたちがいるからちょっと寄ってみようかなとか、5分、10分でも、ちょっとだけでもお子さんを預けられて、ちょっと話ができればリフレッシュできるんじゃないかなと思うんです。

支援センターさんとかいろいろあるのもわかるんですけど、そういうのはわざわざ何時までに行かなきゃとか、申し込んでも定員切れになっちゃうというのを聞いたことがあるので、それだったらネギや卵を持って、それこそ近くのスーパーにちょっと寄れるところがあれば、もっと簡単に。

川合市長 なかなかいいアイデアだと思います。ただ、民間の協力が必要な事業なので、協力がなくて難しいかもしれませんけれども、検討してみたいと思います。

例えばデパートの中なんかそういうのがあるといいでしょうね。

《子育て支援の広報、青空児童館、訪問型子育て相談窓口》

意見 いっぱいいろいろな施設をつくってくださったり、いろいろやってくださっているのはとてもわかるのですが、それが、今ここに来ているような人たちには伝わっているかもしれませんが、働きに出ていて、全然ほかのママたちとおしゃべりもできないとか、おじいちゃん、おばあちゃんに預けるだけで、全く社会との関連がないような人たちもいて、そういう方たちには、市のつくった施設に自分から行かないとサポートしてもらえないという状況がよくないと思うんですね。

市長はご存じかわからないですけれども、足立区だったと思いますが、民生委員みたいな人たちの中にママ番みたいな人がいて、定期的にそういう子どもを持っている家庭を回ったりするらしいんですね。もちろん仕事を持っている方は平日は無理なんでしょうけど、土日などにご近所を訪ねる感覚、友達感覚で、どうですかという感じでご近所を回る方がいらっしゃるそうなんです。

さっきの、活躍の場がないとおっしゃるのであれば、そういうふうにしてあげるとか、申しわけないんですけど、市側からおりてきてもらわないといけない人たちっていっぱいいると思うんです。時間を区切って、その時間に行かなきゃいけないような人たちのために、もしスーパーとかの場所を借りられないのであれば、移動歯医者さんみたいな、大きなバスを市でつくって回ってみたり、公園の隣の駐車場でみんな遊んでくださいみたいな、おりてきてもらえる、いい案はないかなと思っています。気軽に相談できるような。

意見 富士見市が青空児童館というのをやっているんですね。毎週木曜日に勝瀬原記念公園まで自転車でやっているんですが、児童館が転々と公園を回ってくれるんです。それはすごいありがたいかなと思っています。

川合市長 もうちょっと詳しく教えてください。例えばきょうはある公園で、指導者みたいな人がいてということですか。

意見 指導者が5、6人いらっしゃって、先週は運動会をやったんですけど、公園で遊んでいる子たちがみんな1時間半ぐらいやっているんですよ。木曜日は勝瀬原記念公園、金曜日はまたほかの公園でというようにして、青空児童館というのは児童館のスタッフの方がやってくれるんです。公園だから別に施設も要らないし、雨が降ったら中止と決まっているみたいで、登録料も無料だし、名札を児童館のほうでつくってくれる、ただそれだけなんです。子どもって一つのことに集中できないから、公園のほかの遊具で遊んでいても、ママたちは別に何も気にすることもない。

ただ、高階の児童館でやっているわくわく広場というのは、結局飽きちゃうと、も

う帰りたいとなっちゃって、うちの子どもも高階児童館に行っても 30 分ぐらいしか遊べないんです、実際に。だから、連れていっただけで、ただ疲れるという感じなんです。だから、もっと魅力ある児童館にしてもらわないと、子どもたちっていろいろ好奇心があるので、もっと伸ばしていったらいいと思うんですね。

川合市長 青空児童館をやっているのは富士見市ですか。

意見 富士見市でした。勝瀬原記念公園は木曜日に 10 時からやっているんです。

川合市長 それは、例えばどここの公園は毎週木曜日にやるというふうに決めてやっているのですか。

意見 そうです。年間行事みたいな形で、資料になっていて、金曜日はどこどこ公園、木曜日はどこどこ公園で何をやります、持ってくるものは何ですとか全部書いてあるので、自分の都合のいいときとか天気がいいときに行く。子どもに合わせて自分の都合がいいときに行けるので、すごく楽かなと思います。

川合市長 わかりました。ちょっと話はもとに戻りますが、先ほどの方がおっしゃったのは、もうちょっと子育て支援に関する広報をしたほうがいいという話と、それから、訪問して相談に乗るような、そういうようなものもありではないかというご意見でしたか。

意見 そうです。友達がいらっしゃるお母さんは、まだそこで発散とかができると思いますが、できない人もいっぱいいるし、お友達はいっぱいいるんだけど、例えば医療にかかわってきちゃうような、うちの子の発達はどうかなんだろうとか、そういうプライベート的な問題というのはなかなか相談できる相手がいなかったりすると思うんですね。でも、それは自分から動かないと解決しない問題ではあるんですけど、それがもうちょっと市側からおりてきてもらえればいいなと思っています。

川合市長 子育て関連の広報はどんな形でやっていますか。

齊藤子育て支援課長 子育て関連の広報ですと、主にインターネットのホームページや広報でも出しています。

議会のほうからのご意見をいただいておりますが、ほかの市では、例えば今は皆さんケータイを持っていますよね。市のほうからおりてくるという、今の表現はまさしくそうなのですが、メール配信のシステムはできないかということで、今私どものほうで市長にも相談したのですが、検討しています。

確かに今ですと、市のほうが提示しないとなかなか見られない。だけどそこは双方向性ですかね、メール配信はほかの市でもやっているし、川越市でも同じシステムということで、話し合いをしているのですが、年を越したぐらいにはアナウンスできる

と思います。

確かに私が子育てをしているときはそういうシステムがなくて、こういうのがあったら、例えば予防接種とか、相談したいのはいつだとかという、知りたい情報はどんどん出せるような形になってくるかなと思いますが、もうちょっと待っていただけますか。ご希望に沿えるような形にはなると思います。

小谷野福祉部参事 現状では、25日号の広報のお知らせというところで、名細市支援センターの支援室等で講座を開催するときに募集とか、そういった程度なのですが、今後のことについては今、子育て支援課長がお話ししたとおり、いろいろ情報をふんだんに出せるように検討していきたいと思っています。

植松秘書広報監 ここに最新号の広報を持ってきましたが、細かい情報がいっぱいあるんですね。これを多分最初から最後まで目を通すのは大変なんだろうと思います。行政側の言い分で弁解すれば、基本的には載っているじゃないかと。今、子育て支援課長が言っているように、子育てに関するスケジュール表みたいのがあって、これをダイレクトに例えばメールで配信できないとか、実際に今検討しています。

ただ、問題は、そういうことを乗り越えた、もう一つ踏み込んだ、市役所とか行政とか自治体というのは敷居が高いというふうな印象があって、もう一つ情報が皆さんの身近なところに来ないということをおっしゃっているのではないかと思うのですね。その辺については、個々の職員の資質の問題もあるけれども、やっぱり一歩でも皆さんの中に踏み込むような姿勢がないと実際には難しいと思うのですね。

制度として解決できる部分については少しずつ時間をかけてもやっていきたいと思うし、今言われた方の意向に沿うような形で進めてはいきたいと思いますが、一方ではそういう問題もあるのではないかなというふうに考えています。

川合市長 それと発達障害に関する専門の相談窓口を近いうちにつくる予定です。それは、ある場所にそういう窓口を設けて、そこに来てもらうという形になると思いますが、発達障害を専門的に扱うような窓口を近いうちにつくる予定ですので、またそのときはいろいろ広報紙とかホームページなどで広報はしますけれども、そんな考えでいます。

訪問して、あるいはもうちょっと気楽に相談ができるような場所に窓口を設けてほしいというご要望はよくわかりました。検討させてもらいたいと思います。

《育児ストレスへの対応》

意見 今現実には、ちょっと心配な親子がいて、24時間態勢で見守らなきゃいけないくらいなんですけれども、電話をかけてアプローチはしているのですが、それ以外

の時間帯ではフォローし切れない、そういった親子に対してどのように配慮していいか、民間の私たち素人にはちょっと手に負えない部分があるのですが、このような親子に対して市長さんはどのようにお考えですか。

川合市長 虐待の心配もあるのですか。

意見 虐待もそうですが、お母さんが育児ノイローゼで、腰をやられて子どもが抱っこできない状況にありまして、ちょっとお母さんを休ませてあげたい状況にあるんですね。ご主人も夜、11時、12時に帰ってくるという本当に母子家庭のようで、ただ家にいるような状況にあります。

いつも電話をかけて、電話の声では元気になっているんですけども、いざ電話が終わると沈んでいるような状況で、家の中はそうなっていると思っています。ですので、フォローし切れない部分があるので、そんなときに行政はどのように対応を考えていらっしゃるでしょうか。

川合市長 時間外の預かり保育みたいなことはやってはいないのですか。

齊藤子育て支援課長 私ども子育て支援課に担当のケースワーカーがいます、日常、相談を受けている内容にほぼ近いお話ですね。もし差し支えなければ、きょうの帰りにでも教えていただければ、私どものほうで担当のケースワーカーに相談しまして対応しますので。

川合市長 では、それは終わったあとに。

《子育て相談》

意見 さっきの、一歩こっちから踏み出してどこかに行かないといけないということですが、私も一人目を産んだときは、うつという感じではないのですが、やっぱりマタニティブルーのような感じで、外に行くのがとってもこわいみたいな感じだったんです。外に行って、みんなで仲良くしている中に自分が1人入っていくのはちょっとこわいなみたいな感じで、いろいろイベントをやらせてもらっているのはわかるんですけども、一歩行けないみたいな感じなので、健診とかがあるときに、助産師さんとかから優しく、こんなのがありますよみたいなものを紹介してもらえたら行きやすいかなと思うんです。

健診に行くとき結構怒られることが多いんですね。虫歯があったら、あなたの責任よみたいな感じなんです。子育ては初めてでわからないことだらけなのに、それは違うみたいな感じで、ほかのお母さんから聞いても、健診は結構こわかったみたいですけど。そんなときにいろいろ情報とかを教えてもらえると、わかりやすいかなと思います。

意見 相談する相手が保健師さんとか保育士さんとか、そういう肩書にちょっとびびっちゃうというようなときに、講座を受けた方で、隣のおばちゃん的な方にちょっと気楽に相談できる場があったりすると、母親としては姑には言えないけど、知らない家のおばさんにはちょこっと世間話的に言って発散できるというのがあると、多少心が軽くなるときもあるんですよ。

子どもを育てていると、これでいいのかなと思うことがいっぱいあって、だけど、姑に言うと、ああでもない、こうでもない、昔はこうだったとか言われたりするの。でも、知らない家のおばさんに言うと、あら、大変ねえっていう感じで、ちょっと心がずっと軽くなるときもあるので、いっぱい勉強されて肩書のある方もとても必要かとは思いますが、そうじゃない、本当に気楽に話せるような感じの方がおられると、すごく助かるなと思うときがいっぱいありました。

意見 今の方の意見に私も同感なんですけれども、やっぱり私も子どもが2歳くらいのときに連れて行って、言葉が出てないんですけどみたいな相談をすると、言葉の相談機関にとか、そういうところを紹介されちゃうと、うちの子、そんなに大変なのかと思ってしまったりするんです。それを近所のおばちゃんたちに話をしてみると、うちは男の子なんですけど、男の子はね、結構遅かったりもするからねとか、そういう話を聞くと、じゃあ、もうちょっと様子を見てもいいのかなとか思えたりもするんです。

こういうところで、じゃあ言葉の発達教室とか、こういうところに行ってみたらとか言われちゃったり、こういう配慮はしてますかとか言われてしまうと、自分の育て方がなんかまずかったかな、何か落としてきちゃったかなとか、重くとらえてしまうという感じになってしまうんですね。

川合市長 きょう見えている皆さんは、子育てサークルに入られている方ですが、そういうところは定期的に例えば公民館みたいなところに集まって、一緒に子育ての悩みを話し合ったり、そういうようなことをやっているんですか。そういうところに、肩書はないけれども、子どもを育てた経験のあるおばさんに来てもらって、いろいろ話を聞かせてもらうというのも一つのやり方かもしれませんね。

意見 そういうところで、ほかのお母さんから、うちもそれくらいのときはなかったわよとか、そういう話を聞いたり、子育てを経験されているおばちゃんから、もうちょっと様子を見て大丈夫なんじゃないとか言われたりすると、そうかなとか、ちょっとほっとしたりしますね。

《コミュニティカフェ》

意見 私自身も3歳からずっと川越市に住んでいて、川越をこよなく愛していこうかなと心に決めているんですけれど。

それで、まずは直接お礼をお伝えしたいなと思ったのが、市でやってくださっているマタニティスクールだったりとか子育てサロンだったりとかで、私も勇気を出して行ったときに、今は子どもがもうすぐ3歳になるんですけれど、ずっとマタニティのころから一緒に子育てを楽しめるお友達ができたんですね。それもたくさんできたので、本当にそれはありがたいなあとあって、これからぜひ続けていただけたらと思って、お礼を伝えたかったんです。

それから、その中でお母様方と知り合いになった関係で、それぞれ才能を持ったお母さんがすごく多いということを感じました。ただ、子育て中というのは子育てをしなきゃいけないという状態にあるので、その才能を發揮できずに、ただただ子どもと向き合うだけになってしまっている状態が多いかなと思うので、集える場所というか、コミュニティカフェというのが、私も今勉強中なのですが、品川にある「おばちゃんち」という感じで、名前もそういうものがあっていいなと思ったんですね。本当におばちゃんが子育てにかかわったり、同じぐらいのお友達は公園に行ったりとかでできるんですけれど、年齢層の違う方だったり、いつも同じ人じゃなく、いろんなおばちゃんの意見が聞けるというそういうカフェというものだったり、カフェに限らないとは思いますが、そういうものをやっていきたいなあとすごく思うんですけれど、まずはそういったことをやりたいと思ったら、窓口というのはどちらにご相談すればよいのでしょうか。

川合市長 コミュニティカフェをつくっていきたいということですね。

齊藤子育て支援課長 今コミュニティカフェというお話が出ましたが、ちょうど私もでおとといですか、汐見稔幸先生という方の講演会を西文化会館でやって、聞かれた方はいらっしゃいますか。そのときに、子育て中のお母さんがやはり同じような話をされて、ちょっと隣のおばさん、隣のおじさんに話せば済むことを行政に話をするのは敷居が高いということで話をしましたら、汐見先生はたまたま今のコミュニティカフェというお話をしたんですね。この方は大学の先生ですが、全国展開をやってまして、コミュニティカフェは今、小平でもやっているそうです。

話が終わりまして、講師控室で私どものほうで接待しましたら、聞いていた方が5人来まして、先生のお話にすごく共感して、私は農家の嫁だけど、場所を提供するからどうやってやったらいいだろうという話でした。

お話を承ったこの汐見先生は、川越は芋と「つばさ」だけじゃなくて、やりたい人がいるんだねということをおっしゃったのですね。

ただ、そのときにおっしゃっていたのですが、行政が間に入ってしまうと、例えば補助金を出す、出したら、そこで実績だとかに縛られちゃうと言うのですよ。ではどうしたらいいんでしょうかねとお話ししましたら、やっぱりNPOの形、もしくはそういう形で相談くださいということで、これもたまたま持ってきたのですが、汐見稔幸先生のところで窓口になってやっているそうなので、この5人の方は皆さん名刺をいただいて帰っていかれました。

講演会を開きまして、こんなにやりたいという人が来たのは初めてですと言ったら、今おっしゃったコミュニティカフェ、老若男女関係なく集まれる場というのを、私どもでは子育て支援センターとか、つどいの広場でやっているのですが、そうではなくて、民間の企業の方も加わって、だれでも、いつでも、どこでも、で、相談につなげていくという形が考えられる。

私も、きょう来る直前にコミュニティカフェを調べましたら、まだ川越にはなかったです。埼玉県内には幾つかあります。相談窓口ということですが、市役所のどこに相談するのというのと、市民相談とはまた違うと思うのですね。

たまたま私、おととい、同じ相談がありまして、汐見先生のところに多分相談をメールでやりとりをしようと思うのですが、もしよろしかったら、連絡先はお教えいたしますので。

意見 今の関連の話ですが、霞ヶ関北小の跡地、今、私は公民館の懇談会のメンバーで、今検討に入っていますが、私もぜひこの中にコミュニティカフェを希望しています。

川合市長 それはその懇談会の中で強かに主張してください。

意見 はい、主張します。市長にも、ぜひこういう話があったということを念頭に入れていただいて、夢なんですけれども、高齢者と子どもたちや子育て世代が交流できる場としてのコミュニティカフェをつくりたいなと思います。そこに行けば、お茶一杯100円で飲めて、あとお菓子は、ご近所様で手作りの上手な方に頼めたらいいかななんて夢を持っています。そこで親子の交流と、高齢者の人たちと意見交換をしながら過ごせる場があったらいいなあと考えています。

ぜひ市長、このことを忘れないでください。念頭に入れていただいて、いい形に持っていきたいと思いますので、お力添えをお願いします。

川合市長 コミュニティカフェに該当するかどうかわからないのですが、隣の鶴ヶ島

市では、学童保育の会がNPO法人をつかって、レストランとか喫茶店みたいなものを経営しているのですね。そこに行って一度食べさせてもらったことがあります、手作りでリーズナブルな金額で食事ができるとか、そういうことで学童保育の関係の人はそこで会合を持ったり、そういうようなことをやっていますね。そういうのは参考になるかもしれませんね。

《南古谷地区の整備》

意見 私は南古谷地区に住んでおりまして、ここ 10 年の間に農地を売却して、そこに住宅がどんどん建って、少子化の時代にこの南古谷には子どもがわんさかいて、今度私も子どもを南古谷小に入学させるのですが、県下で人数が一番の学校だと思えます。そういう学校もあれば、古谷東小のように廃校になってしまう学校もあって、南古谷小はどんどんこれからも小学校に入る人数がふえると思います。

そういった場合に、空き教室を使って授業をしているし、これから子どもがふえていく場合、どうするのか。例えば下の子がまた小学校に入ったとき、小学校もいっぱい、じゃあどこかの小学校に振り分けるのかという心配もありますし、農地を売ってしまって、いろいろ高齢化で畑を維持できないとか、減反でできないとかで、一挙に住宅になってしまうと、町の整備が追いつかなくて、特にその地域は公園をつぶして売って家が建って、移った公園はまた、人に手放すので公園はなくなりましたとなったりしているんですね。

それに伴って、家の周りも土日は渋滞、バイパスが無料になったり、高速の無料化とも相まって、あの地区は土日はとにかく車がすごくて、町の整備もそれと一緒にやっていただけると助かるんですけど。

小学校も、うわさがうわさを呼んで、だれかがどっかの学校に移るとか、古谷東小がまた始まって、そっちに移るんじゃないのかとかいろいろうわさが立っているんですけど、このあたりの町の整備とかはどうなっているのかなと思うんです。

川合市長 学校のことは、きょうは教育委員会が来ていないので詳しい話はできませんが、南古谷は子どもの数がどんどんふえているという認識はしておりますので、きちんと問題ないように対応することは計画を立てていると思います。

まちづくりに関しては、川越は平成 18 年から、この埼玉県の中で一番調整区域が開発しやすいという条例になっていまして、田んぼの中に家がばたばたと建ってしまうというのが、この数年の間目立っているの、それをほかの市並みぐらいに規制しようという考えで、条例改正を検討しているところです。

今までよりは家が調整区域もつくりにくくなるということで、そういう意味では人

口の増加にブレーキがかけられることになるとと思いますが、南古谷地区をどう整備していくかという点については、正直言ってまだほとんど手についていないというか、今までの計画はあるのですが、新たにできてしまった家も含めてどう扱っていくのかというのは、まだ追いついていないですね。

南古谷は人口がふえているという面もあるのかもしれませんが、自治会の活動なども極めて活発なので、私の考えとしては、地元の人を中心に南古谷地区をどう持っていくのか、その辺のところを考えてもらいたいというか、考えていきたい。行政がこういうふうにやりますというのではなくて、地元の人を中心にまちづくり委員会みたいなものをつくって、それでこの地区を今後どうしていくのか、その辺のところを皆さんで考えてもらうというような、そんなことをやってみたいなと今考えているところです。

《新河岸駅周辺の整備》

意見 新河岸駅で、もう 10 年ぐらい前から、整備します、整備しますと言っておきながら、いつになったら整備が始まるのかなというのがあるって、あそこのマルヒ口通りの歩道が狭すぎてベビーカーが押せない。毎日危ない、こわいと言っている親子がすごく多いんですね。私自身も子どもを自転車に乗せていて、車に 2 回引っかけられました。歩道をもっと整備するべきだし、あそこの道が込むからといって、裏道をみんな車はスピードを上げて行くんですが、それも危ないんですよ。子どもを連れて歩けないんですが、どうにかならないんですかね。裏道もそうなんですけれど。

川合市長 マルヒ口通りは何とかしなければという思いがあります。新河岸駅周辺は区画整理事務所をつくって四十数年たちますが、ほとんど手がついてこなかったのですが、2 年ぐらい前から、駅前の両側に広場をつくって、そこに至る道を広げるという方法で駅前を少し整備しようということで、今買収を進めているところです。

それができたときに、駅舎そのものを、本当は両側から乗れるような跨線橋みたいなものがほしいなとは思っていますが、駅舎などを整備するについても、市が、ここを整備したいと言った場合は、鉄道会社ではなくて、市がお金を持たなければならないんですね。

ちょっと余計な話になるけれども、2 年ぐらい前、霞ヶ関駅の北口を整備して、駅もきれいになりましたが、私の記憶では総額で 31 億円ぐらいかかっているのだけれど、東武鉄道が出したお金は 5,000 万円で、あと県から 4 億円ぐらい補助が出ていて、残りのお金は全部市のお金なんです。

そういうふうに、駅をきれいにするにも、市が大部分のお金を出さなければならな

いということもあって、本当は私としては新河岸駅もそうだし、川越市駅もそうだし、南古谷駅も何とかしたいなとは思ってはいますが、これは極めて長期計画にならざるを得ないというところがあります。

新河岸駅については、そうは言っても、もう40年近くほとんど手がつかないまま来てしまったのだから、鋭意進めて、そのマルヒ口前の通りも何らかの形で、今、地下道ができていますよね。

意見 地下道もちょっと暗くて、子どもを1人で歩かせるのはちょっとなあって思うんですよね。それにマルヒ口通りの歩道が狭く、店の敷地に上がるのに5センチぐらい段があって、この段があるから、いちいち自転車の人もこっちにおりるから車も行けないし、すぐ渋滞になってしまう。バリアフリーにするだけでも多分ずいぶん違うと思います。

川合市長 そういう個々の問題についても対応していきたいと思っています。新河岸駅については、少なくともこの数年力を入れて整備したいと思っています。

意見 新河岸駅から上福岡駅に抜ける道ですが、ふじみ野市に入った途端に歩道が広いんです。本当に新河岸だけこんなに狭い。だから、もうちょっと同じぐらいにできればしていただきたい。

川合市長 時間がかかるとはと思いますが、鋭意進めたいと思います。

《防犯灯の設置》

意見 子どもを学校とかに通わせるのに、歩道もそうですが、古谷地区に産まれたときから住んでいるのですが、真っ暗な田んぼ道を歩くようなんですね。自分は何でもなく歩いていたのですが、いざ子どもを通わせると、かなりこわいかなと。しかも、私たちの時代から結構露出狂とか誘拐されかけたとか、友達でも結構聞きます。

どこかのまちでは特殊なライトをつけたら、それだけで犯罪が減ったというところとかもあると聞いたので、せめて街灯だけでもつけてもらいたい。多分砂中とかのほうも、田んぼ道を歩くところは結構真っ暗なままで、特に中学生は部活が終わった後とか、小学生でもこれからの時期は薄暗くなると思うので、その設備をつけてもらえたらなと思います。

川合市長 古谷小学校ですか。

意見 そうです。私は南古谷方面から古谷小に通っていたのですが、あの田んぼ道も、古谷小の学区が広いのでどこから通うにもそんな感じで、伊佐沼のほうもそうですし、かなり広いので、どこでも暗い感じで、本当に友達とかでも、犯罪に巻き込まれるすれすれの子がいたりとか、私たちの時代からよく聞いていたので、その辺がちょ

っと心配かなと思います。

尾崎市民部長 皆さんのお力を借りまして、小学校、中学校、地元の人たちで、小学校、中学校の通学路の総点検を今やっています。それで皆さんからの要望で、こういうところがというようなものがあるので、この11月ぐらいから具体的に動くと思います。

防犯灯の設置要望というのも、全部は無理ですが、いろいろなところで要望があるものについて、ことし、来年と、そして将来的には5年かけて、5年というと先になってしまいますから、ことしと来年で重点的に、通学路の安全対策は小学校を中心に、ことし、来年で、ある程度、目に見えるようなものができると思います。その中に入っているかどうかはちょっとわかりませんが、皆さんのご意見をいただいて、PTAさんなどのいろんな意見をいただいて、整備していこうという具体的なものがここでできていますので、幾つかは解決できていくと思います。

意見 古谷地区もぜひお願いします。

意見 今の防犯灯の話聞いてちょっとほっとしました。今、出た砂中学校のところは、うちの子どもも今、一番下が中学生ですし、その上の子たちも通っていて、田んぼがあるので防犯灯をつけてほしいなと思いながら、その田んぼがあるがゆえに、稲等の生育の関係でつけられないというのを聞いて、じゃあやっぱり無理なのかなと思いつつ、でも、今おっしゃっていたので、そこに入っているといいなあと思っています。

尾崎市民部長 具体的に入っているかどうかわかりませんが、ご要望があって、自治会さんとか皆さんの協議の中でつけていくわけですから、その中で、今おっしゃったように農家の人がいやだという人もいるのですね。

《少人数学級、こども医療費助成の拡大》

意見 そうですね。だから、その部分が少しでもクリアできて、安全に通わせられる通学路であってほしいなというのはすごく感じます。

それで、また違う話ですが、私は3人子育てをしてきて、今、一番上が中学1年ですが、それは市の段階でさせていただけることなのかどうなのか。1クラスの人数は、一番は国が決めて、それから県が決めてとなりますが、小学校1年生、2年生が35人が限度になってきて、それは川越市の裁量でやっていただいているのはすごくありがたいなと思います。

幼稚園から小学校に上がるというのはすごく不安があるので、それをやっていただいているというのはすごくありがたいなと思いますが、それがまた上の学年になる

と、1クラスの人数が多くなっていくというので、もっと子どもたちに学ばせてあげたいという親の思いがあるので、1クラスの人数をもっと少なくする配慮をしていただけたらすごくありがたいなと思います。

もう一つは、子どもの医療費の引き上げの問題ですが、今は小学校3年生までになりました。それは本当にありがたいことだと思いますが、小学校に上がってもインフルエンザをもらってきたり、けがをしたりとかで病院にかかることはいっぱいあります。それも今自治体によっては中学校卒業まで入院も通院も全額無料のところもあります。入院は中学卒業まで助成していただけたらということですが、それをせめて通院のほうまで回していただけたらと思います。ぜひご検討いただければと思います。

川合市長 子どもの医療費無料化は段階的に進めていかざるを得ない。お金があれば一ぺんにやってしまうのですが、そういう状況の中で、小学校3年生まで通院医療費を無料化したわけですが、今後順次引き上げていこうという考えはあります。

意見 ぜひ早いうちにお願いします。

石川副市長 今お話のように小学校の1、2年と中学の1、2年については、国が定員40人にしているところを35人に埼玉県全体では下げています。それをまたさらに引き下げていこうという国の審議会での動きがあるのは、報道されているからおわかりになっているかと思います。

ただ、一点注意してもらいたいことは、人数を少なくすれば少なくするほど、多分お母さん方は自分のお子さんや娘さんを先生がよく面倒を見てくれて、例えば病気一つとってもよくケアしてくれて、必ずいいケアをしてくれるから、少なければ少ないほどいいのだろうというご発想が多いのだろうと思いますが、これに対しては反論もあるのです。

そのことをちょっとご紹介しますと、どんどん少なくして、極端に言いますと、例えばうちの子どもや娘が行くのに10人の学級だとします。毎日毎日この10人の中で教えてもらったりお友達と遊んだりしているわけですが、その10人の刺激と40人の刺激、40人いるといろんな子がいるはずですから、4倍いろいろな個性を持ったり、もちろんいい個性だけじゃなくて、危害を及ぼすような子どももいるかもしれませんが、逆に本当に能力の優れているような子どももいるかもしれない。そういう多様な中で切磋琢磨して、たくましい子に育てるために40人というベースを置いたのですね。

それが、今の子どもたちのいろいろな難しい家庭環境もあって先生も大変なので、35人まで落としましたと。それをさらに、まだ大変だから少しまた落とそうという動

きが出てきていますが、今の学校現場は、むしろ 35 人をキープしながら、それに T T といって、本来の担任の先生以外に、その先生を助ける補助員を置いて、2 人の目で全体の 35 人を見ていきましょう、これならばいこうと思えます。

あるいは、先ほどちょっと話題に出た発達障害を懸念されるようなお子さんや多動性障害の子どももいます。そういうときに、すぐ補助員が行ってサポートする。そういうような形で、なるべく大きな中で自分の子どもがいい意味でもまれて、たくましく生きていく、そういう下地は捨てないほうがいいのだという意見もあって、余り温室で、極端に言えばマンツーマンで学校は教えればよいとなってしまうと、学校の意味がなくなってしまうので、ぜひそこは知っておいてもらいたいということで、ご意見だけちょっと申し上げました。

意見 ありがとうございます。マンツーマンでという、そこまで求めるつもりもないです。ただ、やっぱり今おっしゃられたいろんな状況があってということで、できればもっと枠を狭めて、ほかの学年も狭めて、もちろん高学年になると授業ももっともっと難しくなりますので。T T という配慮もしていただいているのもすごくわかりますが、もっと広げていただけたらと思います。

《通学路の安全対策》

意見 私は山田公民館で子育てサークルをやっていて、そこに来ていたお母さんで、上の子が来年山田小学校に上がるのだけれど、国道 254 号を渡って学校に行かなきゃいけない、そこは横断歩道もなく、子どもだけで渡るのはとても心配だという話を聞いて、子どもたちの下校の様子を見てみたんです。そこは一応信号があるので、赤で待っているときに子どもたちは並んではいるんですけれども、青に変わって渡り始めるのですが、青になっている途中で来た子たちなんかは、信号が点滅していてもダラーッとばらばら走って渡っていく子たちが結構多かったんです。結構道幅も広いので、254 号を渡るのは結構心配があるのかなと感じました。

そういう危険な通学路に、朝は指導員さんとかが立ってたりはするのですが、帰りも指導員さんとかに立ってもらえないかなと感じたのですが、予算的にどうなんでしょうか。

川合市長 バイパスを渡るということですね。

意見 そうですね。

川合市長 考えてみれば、歩道橋がなかったですね。

意見 モスバーガーなんかがあったりする、横断歩道がちょっと斜めになっている感じのところではあるのですが、子どもたちが並ぶところのわきが三差路になってい

て、車が急に曲がって三差路の細い道を入れていったりするので、そこを指導員さんとかだれかに立っていただけると安心かなと思います。

私の子どもは川越小ですが、あのあたりは昔、川越城があって城下町だからというのもあるのか、割と狭い道を車が通っていて、歩道が狭いかなという気がします。

うちの子も一度、車にぶつかりそうになったことがあったので、市役所の前の信号を渡って角のところを子どもたちは通って帰るのですが、曲がってくる車が多いので、もうちょっとあそこが広がらないかなと思います。

川合市長 通学路の問題については、先ほど部長が言ったように、それぞれ各学校から上げていただいたものをなるべく早く対応するように、比較的安い費用でできる問題については即やっていくように今考えています。

石川副市長 市役所を渡っていくところですね。

意見 そうです。朝だと、札の辻から信号を渡って、ずうっと真っすぐ来て、市役所の信号を渡るところです。

石川副市長 そこはもう買収して、間もなく広げますので、もう少しお待ちください。

《子どもの英語教育》

意見 お母さんたちの立場からと教育の立場から二点だけ、きょうは教育委員会の方は来ていらっしゃらないということで、聞いていただければと思います。

優秀なお母さん方がたくさんいて、サークルでも、英語を使ってお仕事をしていたとか、そういうお母さんもいます。周りの、さいたま市、朝霞市、志木市、狭山市、鶴ヶ島市とかでも、小学校に英語が入ってきて、普通の日本人の先生たちもたくさん入っていると思いますが、川越市は、多分担任の先生とネイティブの先生だけで、ほかにもいらっしゃると思いますが、やっていると思います。

もちろんそれも必要なことだと思いますが、私のサークルを卒業したお母さんたちが狭山市の小学校で教えているとか、さいたま市の小学校で教えているということが多々ありますので、もし小学校の英語教育で英語ノートを使って教えるのでしたら、日本人のお母さんでも十分活躍できると思いますし、子どもたちも、ネイティブの先生が英語を話すのは当たり前だけど、日本人の、ちょっとまちにいるようなお母さんたちが英語をすごく上手に話していたら、いつか僕たちもそういうふうに話せるんだというような、当たり前になってくると思うんですね。なので、そういった機会があればいいなと思いました。

それでネイティブの先生が来ていらっしゃっていただければ、川越は観光でも先行していると思いますし、外国人もいっぱい観光でいらしているのです、小学校のころか

ら、川越を英語で僕たち案内できるよというようなふうに、ネイティブの先生が英語ノートだけを教えているのはすごくもったいないと思うので、そういう形でやっていただければと思います。

観光と、また教育で魅力ある市にしていただければ、あと、お母さんの活躍の場も、学校で働けたら夏休みも休めますし、わざわざほかの市に働きに行くことはないと思いますので、そういう声も周りにはあるので、聞いていただければと思いました。よろしくをお願いします。